4－2　下高野のボンテン飾りと天道念仏

蕨 由美

はじめに

下高野では、出羽三山信仰の行事として、２月 14 日に「ボンテン飾り」、翌 15 日に「天道念仏（てんとうねんぶつ）」、７月最終日曜日ごろに「奥州講」が行われている。

本稿では、２月に取材させていただいたボンテン飾りと天道念仏について、報告する。

１．　ボンテン飾り

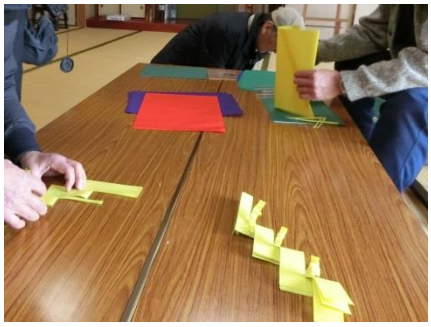
２月 14 日は朝から、出羽三山登拝を行った奥州講ほかムラの男性が福蔵院（現・下高野公会堂）に集まり、ボンテン６本（５色が５本、白のみが１本）を作成する。

ボンテン作成の手順は、①ボンテンの芯になる藁ヅトを作る。②色紙（赤・黄・青・緑・紫・白）のヘイソクを作る。③ヘイソクを逆さにして、藁ヅトに巻いた紐に挟み込む。④ボンテンのてっぺんに刺す「カミサマ」と呼ぶ御幣６本と、「三山」を意味するというサンカク３本を折って作り、竹に挟む。⑤藁ヅトに竹棒を刺す。⑥てっぺんに御幣とサンカク３本を刺し、出来上りとなる。

なお、ヘイソクは、翌日の天道念仏で配る分を余分に作る。出来上がったボンテン６本は、戸を閉めた仏殿前に立て掛けてから、軽トラに積み込み、全員三山塚へ移動、三山塚前の古いボンテンを取り除いて、掃き清める。

新しいボンテンは、四角の四方と真ん中に色ボンテン、北側に離して白ボンテンを立て、タコ糸を張って結界し「ボンテン飾り」が完成。全員整列して、出羽三山の神社の「三山拝詞」を唱え、福蔵院に戻って「直会」をする。

①ボンテンの芯になる藁ヅトを作る



②色紙（赤・黄・青・緑・紫・白）のヘイソクを作る

③ヘイソクを藁ヅトに巻いた紐に挟み込む

④御幣「カミサマ」と「サンカク」を作る

⑤藁ヅトに竹棒を刺す

⑥御幣とサンカク３本を刺し出来上り

⑦出来上がったボンテンを仏殿前に立てる

⑧軽トラに積んで出発

⑨三山塚の古いボンテンを片付け清掃

⑩ボンテンを飾って、一同拝礼

２．　天道念仏

翌 15 日は、朝から念仏講の女性数名が福蔵院に集まり、本尊の阿弥陀様に灯明と香を手向けてから、「天道念仏」を行う。

天道念仏は、毎月行う「六座念仏」のうちの一座で、「我昔所造諸悪業」から「得心菩提」「十三佛」「大日尊」を唱え、「彼岸記」と「懺悔経」は唱えない。

リズミカルな太鼓と鉦の音で調子を取りながら、唄うように念仏を唱え、約 30 分で終了。その後は、200 円会費で、お茶とお菓子で歓談し、昨日余分に作った色紙のヘイソクを３枚ぐらいずつ各家庭用に持ち帰る。これは、玄関などにさして魔除けにするとのこと。なお、奥州講の男性は参加しない。

現在の念仏講のメンバーは５～６人。念仏は各自の念仏帳「六座念仏記」を見ながら唱える。念仏帳には、下高野の書家で書道を教えていた立石吉氏の筆で「昭和壬子年（1972)」に書かれたものもあった。

①本尊の阿弥陀様に灯明と香を手向ける

②太鼓と鉦で調子を取りながら念仏を唱える

③念仏で使う太鼓

④念仏が終わるとお茶とお菓子で歓談

３．　下高野のボンテン飾りと天道念仏の特徴

筆者は、これまでの八千代市域の上高野と吉橋花輪地区のテントウネンブツを取材したが、上高野では「ボンテン作りー祭壇（テントウ棚・オタナ）の設置ー念仏踊りー祭壇の解体ーボンテン塚への移動ーボンテン立てーお神酒をあげて拝礼ー寺へ帰って餅配りと直会」という流れで行われていた（注 1)。

また、吉橋花輪地区では、ボンテン塚の大日如来石像を運び、祭壇の本尊に据えてボンテンを飾り、その祭壇の解体の前に直会が行われること、また念仏講が解散して念仏踊りは省略され、全員での読経と数珠オクリに変わっているという違いがあるが、基本は上高野と同様で、両地区とも男女が共に参加する（注 2)。

下高野の場合は、テントウ棚の設営や念仏踊りはなく、2 月 14 日の奥州講による「ボンテン作り―ボンテン塚でのボンテン飾り―拝礼―直会」の行事と、翌 15 日の念仏講の女性たちによる天道念仏の唱えに分かれて行われる。また、7 月に「奥州講」と称し、ボンテン飾りと同様な行事を行っている。

なお、奥州講の同行者が亡くなると、「ボンテンハギ」と称し、葬式の翌日にボンテン飾りと同じボンテンを葬家の庭先に持っていって三山拝詞を唱えた後、墓を囲んでボンテンを立て、拝詞を唱えた（注 3）という。

おわりに

天道念仏は、衰えた太陽の力を春先に復活させる予祝の祭祀に、念仏（踊り）と出羽三山信仰が融合した行事で、千葉県や茨城県などの旧村で広く行われている。

またこの地域では「奥州参り」の講が盛んで、家を継いだ男性は、一度は出羽三山に登拝するという習わしがあり、ムラ内の里から離れた「聖地」には三山塚（ボンテン塚）が築かれ、三山の供養塔や登拝記念碑が建立されている。

下高野でも現在も奥州参りが続けられ、三山塚には、寛政 6 年（1794）銘から、最新では平成 24 年（2012）銘まで、出羽三山塔 10 基が建立されている。（「4　下高野のムラの石造物」参照）

下高野では、神仏分離からであろうか、三山塚にボンテンを飾り拝礼する行事と、念仏行事が分離して行われている。今回は、下高野地域独自の習わしの特徴を知ることができ、テントウネンブツといっても、地域にはそれぞれの伝統があって一律ではないことがわかった。

特に、華麗なボンテンの作り方や拝礼、念仏講の姿を拝見でき、敬虔なる体験をさせていただいたことについて、下高野の奥州講と念仏講の方々に深く謝意を表します。

注（出典）

1. 蕨由美「上高野の民俗・春をむかえるムラの行事」『史談八千代』26 号 八千代市郷土歴史研究会　2001 年
2. 蕨由美「吉橋の信仰行事 - 花輪の「天道念仏」」『史談八千代』40 号 八千代市郷土歴史研究会　2015 年
3. 八千代市史編さん委員会「市内の天道念仏」『八千代の歴史　通史編　下』八千代市 2009 年